

第 212 回 Bone Biology Seminar

「FGF23 とリン代謝異常症」

福本誠二先生

東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科講師

線維芽細胞増殖因子(fibroblast growth factor: FGF)23 は、FGF19 や FGF21 と共に、FGF19 サブファミリーに属する液性因子である。FGF19 サブファミリーメンバーは、ヘパリンへの親和性が弱く、局所因子ではなく全身性因子として作用する。また FGF19 サブファミリーメンバーは、FGF 受容体と Klotho、あるいは β Klotho との複合体に結合することにより、その作用を発揮するという特徴を有している。FGF23 は、主に骨細胞により産生され、腎近位尿細管のリン再吸収の抑制、1,25-水酸化ビタミン D 産生抑制などを介して、血中リン濃度を低下させる。過剰な FGF23 作用により、いくつかの低リン血症性くる病/骨軟化症が、一方 FGF23 作用障害により高リン血症を特徴とする家族性腫瘍状石灰沈着症が惹起されることが明らかにされてきた。これらの結果は、FGF23 が骨により産生され、腎臓に作用するホルモンであることを示している。FGF23 の同定により、骨はホルモン産生臓器としても機能すること、一部のくる病/骨軟化症や腫瘍状石灰沈着症が、内分泌疾患として理解されることが明らかとなった。

2009 年 6 月 12 日(金) 17:00～19:00

東京医科歯科大学

難治疾患研究所(駿河台地区)1 階会議室

(公開講座、来聴自由)

問い合わせ先: 難治疾患研究所分子薬理学 野田政樹
TEL 03-5280-8066